ミニ特集：意外と使える
プレートレスコンパス

究極のコンパス

マイクロレーサーを初心者指導に生かす

村越 真

指導が難しいプレートコンパス

初心者指導をしていて常に感じるのは、ベースプレートコンパスによる指導上の難しさだ。元々コンパスは北を知り、それによって方位を知るための道具だった。これが競技的なオリエンテーリングに使われ、特徴は少ないが植生状態のよい北欧で目標地点に直進するために、ベースプレートコンパス（シルバ社が開発したので、一般的にはシルバコンパスと呼ばれる）が開発された。

ベースプレートコンパスは、高い精度で直進するためにはよい道具だが、日本の山野では、「オーバースペック」である。なぜなら、日本では尾根・谷がはっきりしているので、道やそれらの地形的特徴の方向が分かれば十分ナヴィゲーションができるからだ。富士など一部のテレインを除けば、ベースプレートコンパスとしての機能を活用し直進に使うことは、オリエンティアでもほとんどないのではないだろうか。地図の精度が高くなった現在、ヨーロッパの競技的オリエンテーリングでもプレートコンパスで直進する選手は少数派になっている。

オーバースペックが問題をもたらさないなら「大は小を兼ねる」が、プレートや回せるカプセルがあるせいで、初心者の注意はどうしてもそうした「余計な」部分に注意が向く。その結果、磁針によって北を知り、それによって自分が向いている方向を知るという基本的な使い方への注意がおろそかになるという体験を何度もしてきた。

もっとシンプルなコンパスが欲しいと切実に願った。そんな時にであったのが、シルバ社が子どものオリエンテーリング用に販売しているマイクロレーサーだった。

マイクロレーサー

トレラン界のトップレーサーであり登山家でもある横山さん、マイクロレーサーを差し上げると、あれこれと興味深そうにいじって、一言「これいいですね」

究極のシンプルさ

マイクロレーサーは、究極のシンプルさを備えたコンパスだ。見るべきものは磁針しかない。指に付けて固定するためにベースプレートこそついているが、進行線があるわけでもなく、カプセルが回せる訳でもない。カプセルの度数目盛りすらない。

しかし、オリエンテーリングでは進行方向を一々度数にして読み取ることはせず、整置によって針路を確認するのだから、これで十分なのだ。

初心者から登山やトレランのエキスパートまで、このコンパスを見せた人のほとんどが、「これいいですね」と言って気に入ってくれる。彼らはオリエンティアのようにベースプレートコンパスを手に持つ習慣がない。だから、本来方向を確認すべき場所でも、ついそれがおろそかになる。結果として道や尾根線の間違いにつながる。しかしマイクロレーサーなら指に着けているので、必要な時にストレスなく方向を確認できる。その利便性が評価されるのだろう。

日本のオリエンティアにとっても、マイクロレーサーは通常のレースや練習に必要な機能を必要十分に兼ね備えている。初心者指導にこのマイクロレーサーを取り入れてみてはどうだろう、というのが今回の提案である。

もっとも確実に使いこなすためには、ステップを踏んだ練習が必要だ。以下に示すのは、そのためのステップ試案である。【ステップ 1】北が分かること、【ステップ 2】自分の向いている方向が分かる。地図と組み合わせて整置すれば、【ステップ 3】進むべき方向に自分が向いているかを確認することができる。オリエンテーリングの実戦にも役立つステップ 3 は、余計なもののないマイクロレーサーなら意識しやすい。既にオリエンテーリングをしている人にとっても、こうした手続きを再確認することは、より正確かつ確実にコンパスを使う上で役立つだろう。

【ステップ 1】北が分かること。（図 2）

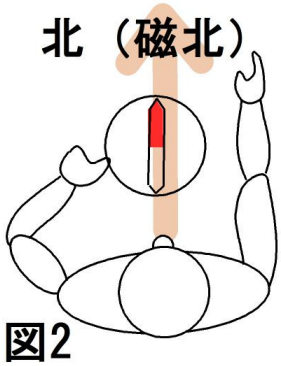


図2

【ステップ 2】自分が向いている方向が分かる（図 3）

コンパスを正面に構え、適当な方向を向いて、今自分がどちらの方向を向いているかを 8 方位で言ってみる。図 3a では、北西である。図 3b～d それぞれどちらを向いているだろうか。

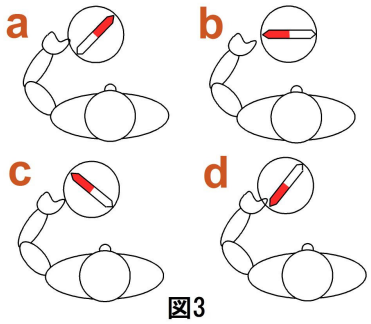
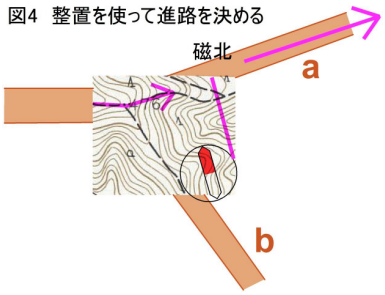


図3

【ステップ 3】整置で正しい道かどうかを判断する（図 4）

図4　整置を使って進路を決める



（村越 真）